



鳥取県東部 在宅医療介護スタッフを 対象とした現状調査報告(中間)

在宅医療介護連携推進室

June.3.2026

Table of Contents

- 01 調査概要
- 02 年齢・経験年数
- 03 所属機関・職種
- 04 在宅医療・ケアの現場で働く中で、課題や困っている事
- 05 「多職種との連携」において課題と感じるもの
- 06 希望する研修・自己研鑽
- 07 課題の根底にあるもの
- 08 改善に向けた方向性（提案）
- 09 まとめ【現時点では…】

01 調査概要

調査対象

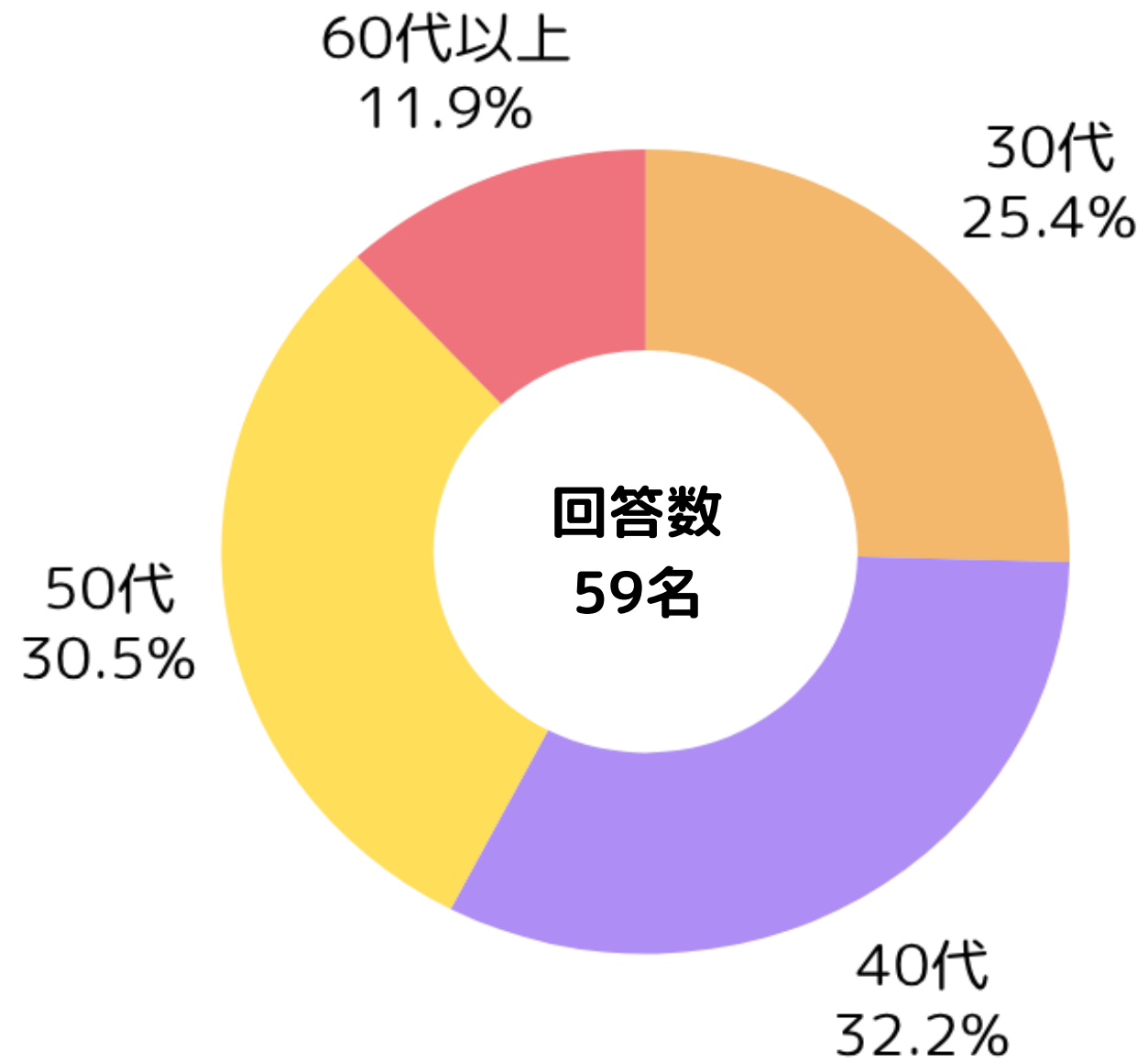
| | |
|------|--|
| 対象 | 鳥取県東部在宅医療介護スタッフ(個人)：看護師・介護福祉士・介護士・PT・OT・ST・ケアマネジャー |
| 調査期間 | 2026年4月29日～5月28日現在。 |
| 回答数 | 59名 |

調査項目

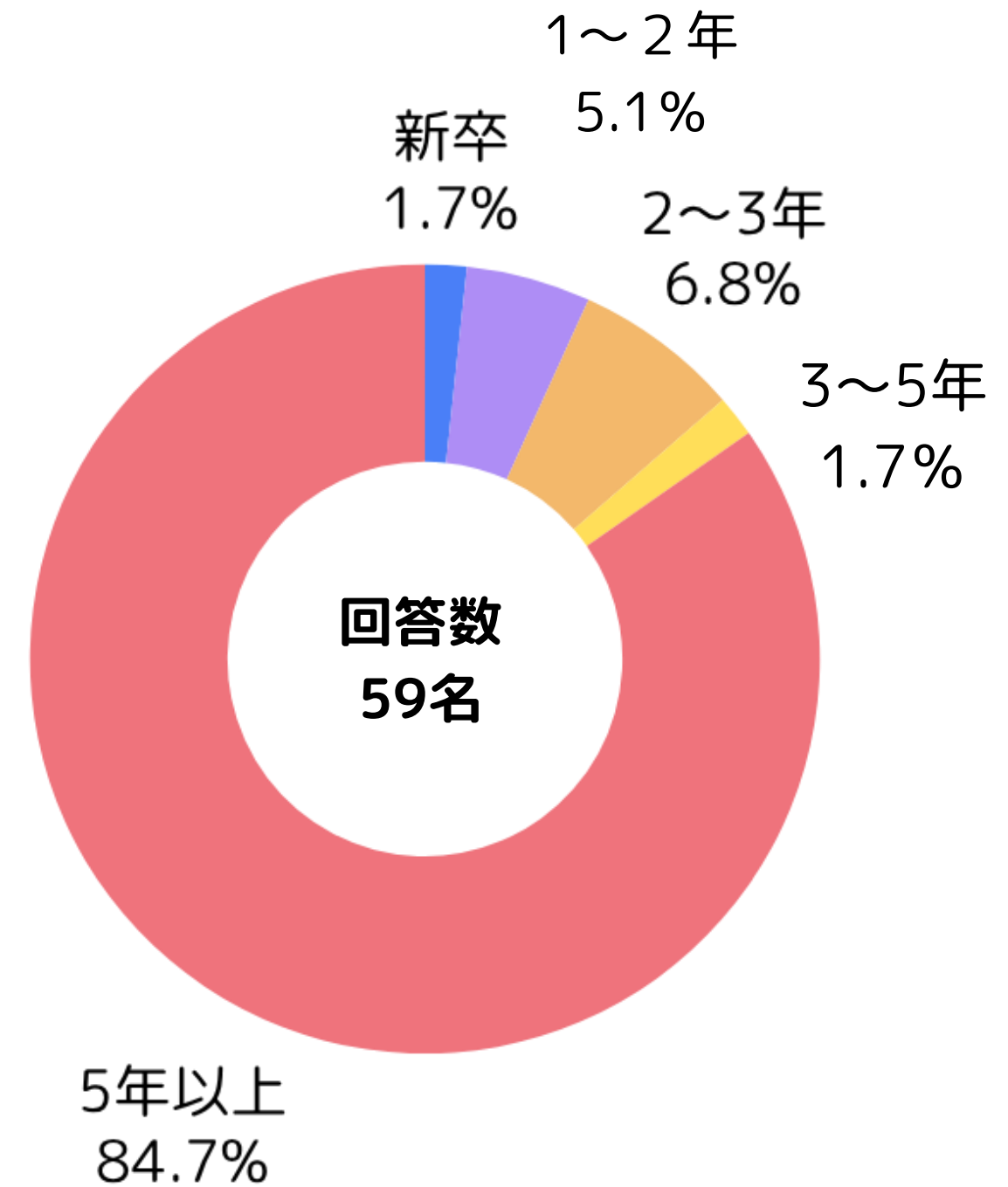
| | |
|--------------------|----------------------------|
| 年齢 | 「業務への習熟度」に応じたサポート体制の評価 |
| 経験年数(職種での) | ライフステージの評価 |
| 職場環境(所属機関) | サービス形態による「課題の違い」を評価 |
| 職種 | 職種を把握することで「専門的な困り事・ニーズ」を評価 |
| 現場で困っている事 | 職場環境の健全性と、組織的な支援ニーズを把握する |
| 多職種連携において課題と感じている事 | 地域・組織における『協働』を把握する |
| 希望する研修・自己研鑽 | 今後の『人材育成方針』と『支援の優先順位』を把握する |

02

年齢



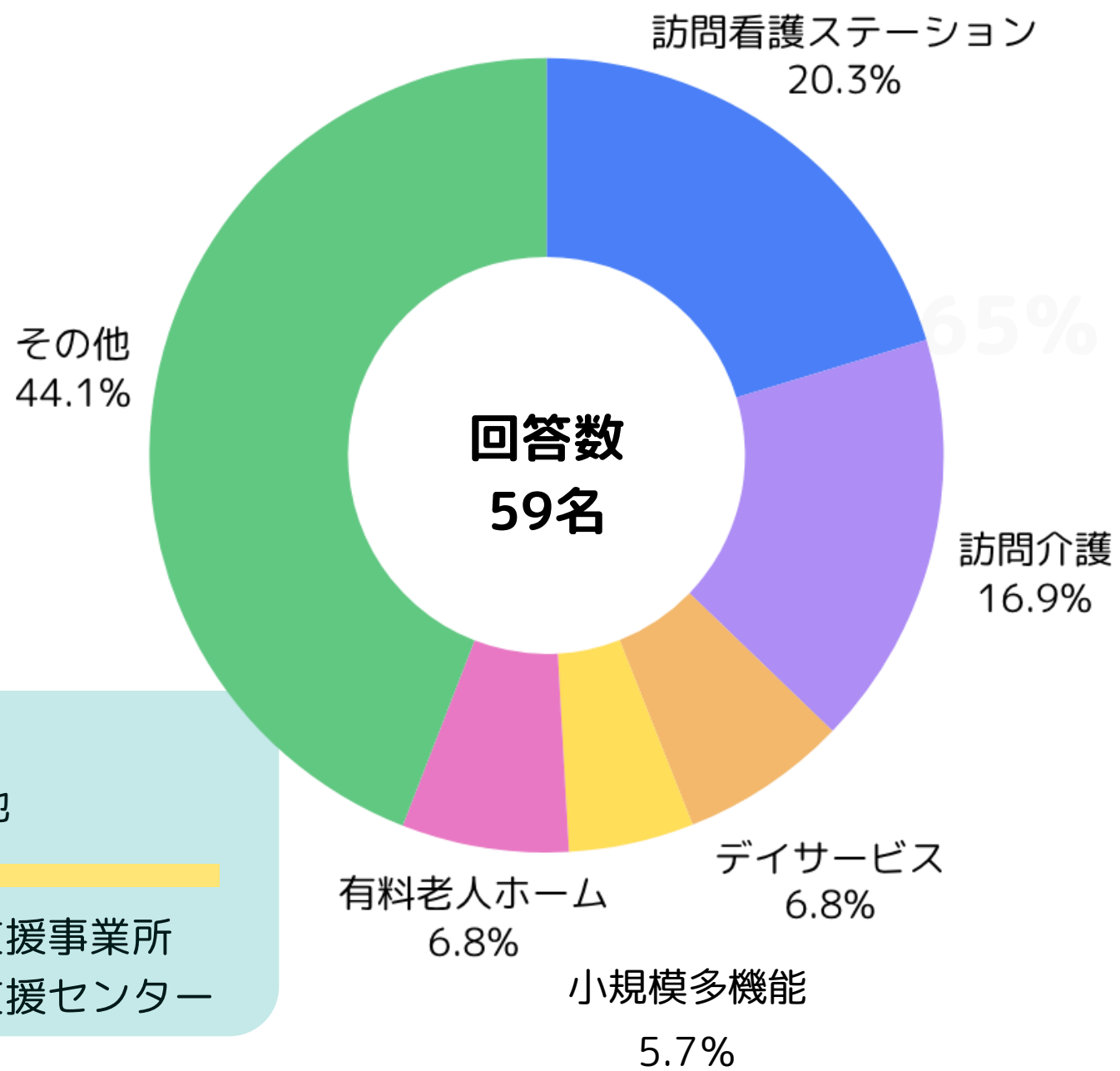
経験年数



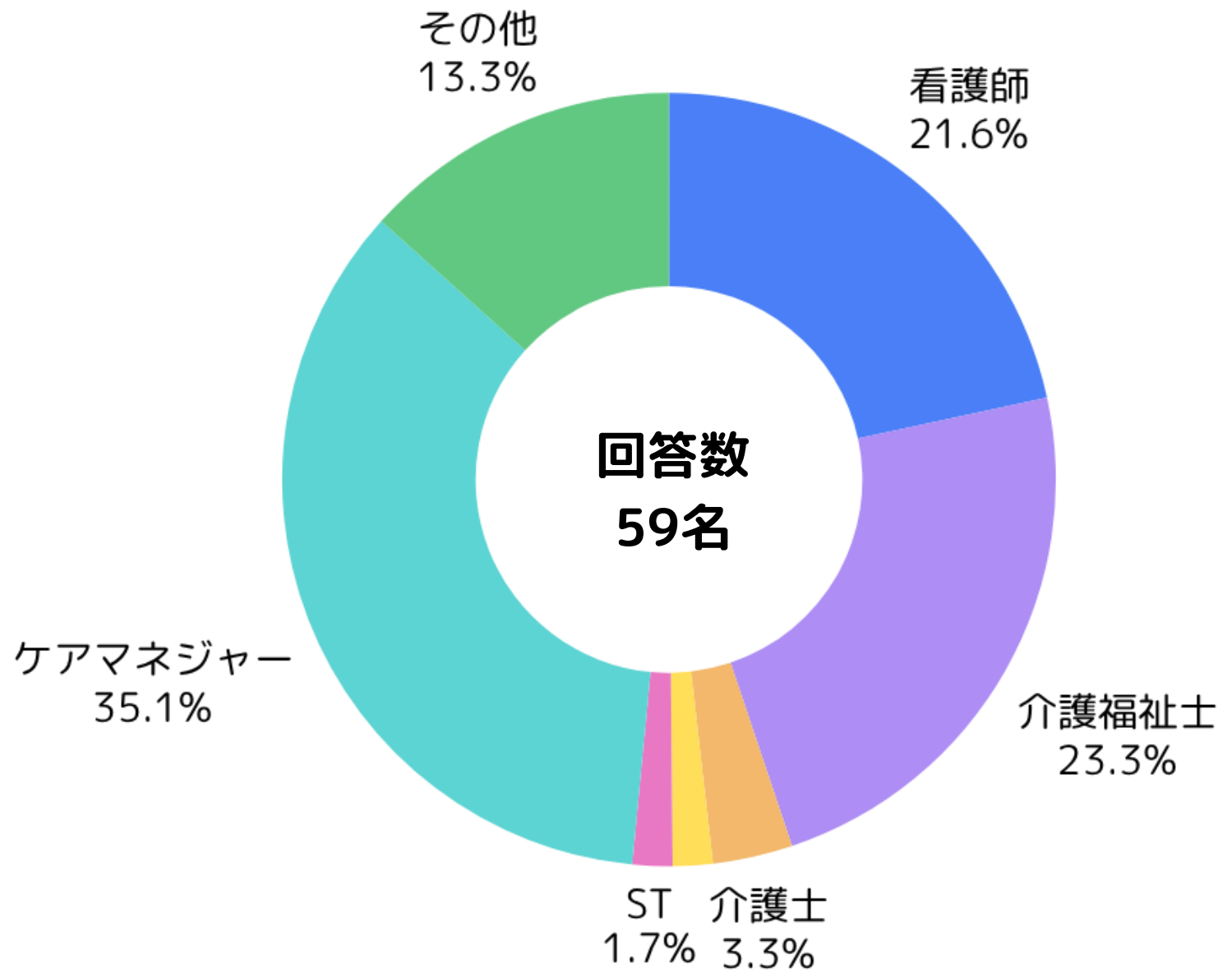
03

所属機関

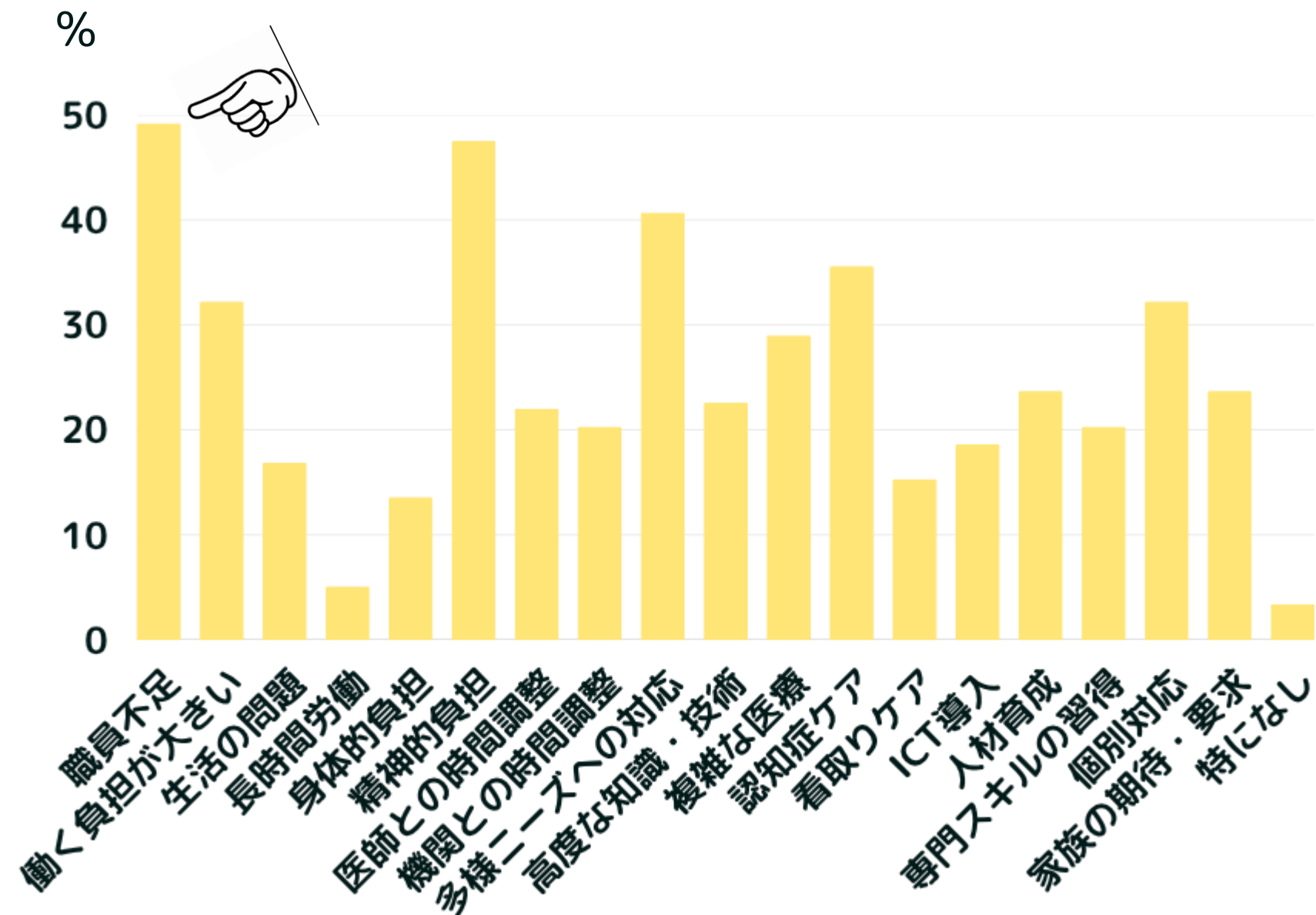
職種



その他
居宅介護支援事業所
地域包括支援センター



04 在宅医療・ケアの現場で働く中で、課題や困っていることは？



声

「職員不足」が最も多い回答であった



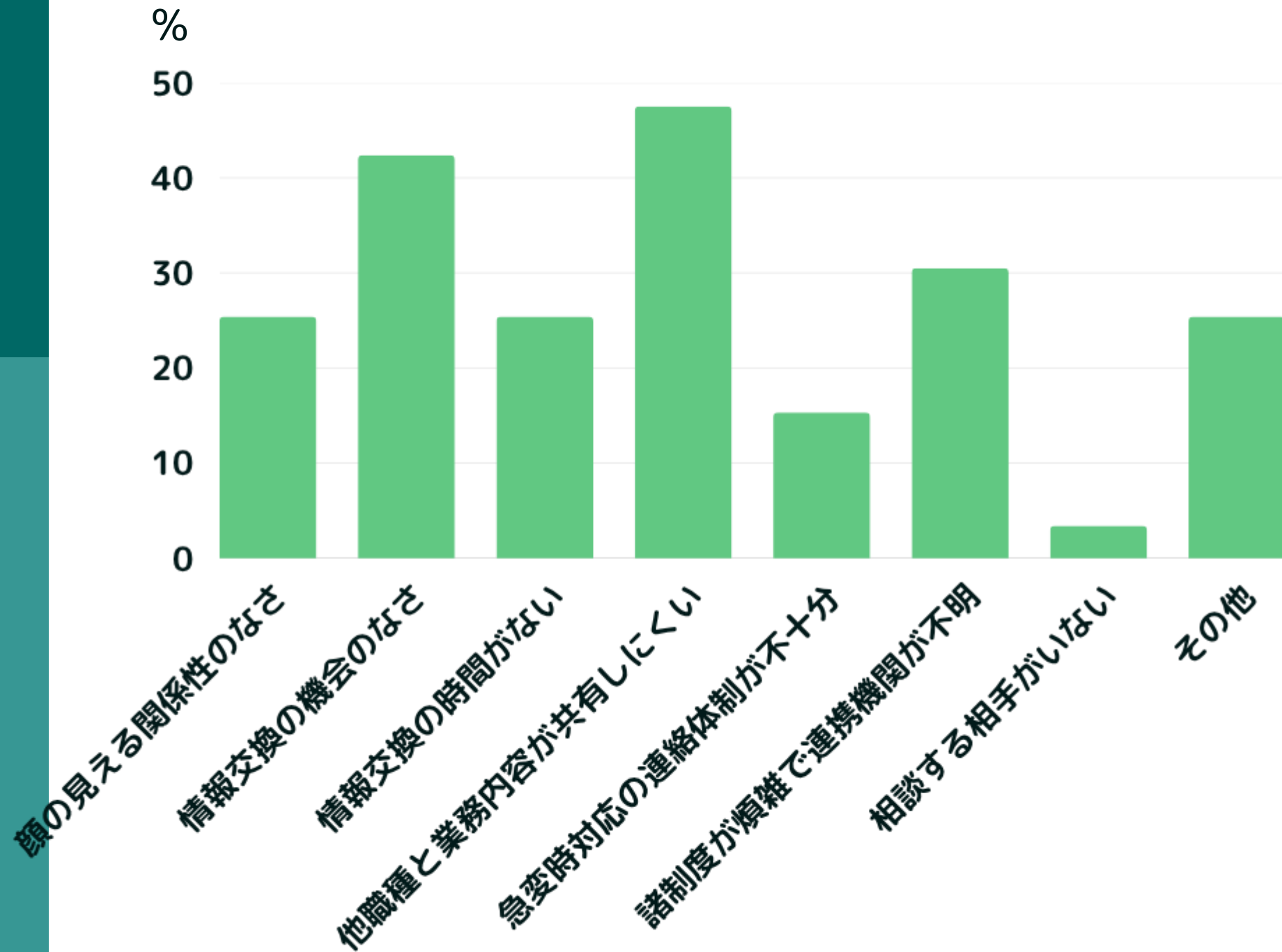
原因は不明だが、職員不足が他の課題につながっていると推測する

人員不足 → 業務過多 → 心理的負担増
→ 利用者・家族対応の難しさ増大
という悪循環である



05

「多職種との連携」において課題と感じるものは？



声

多職種連携に課題があると
8割（78.0%）回答した

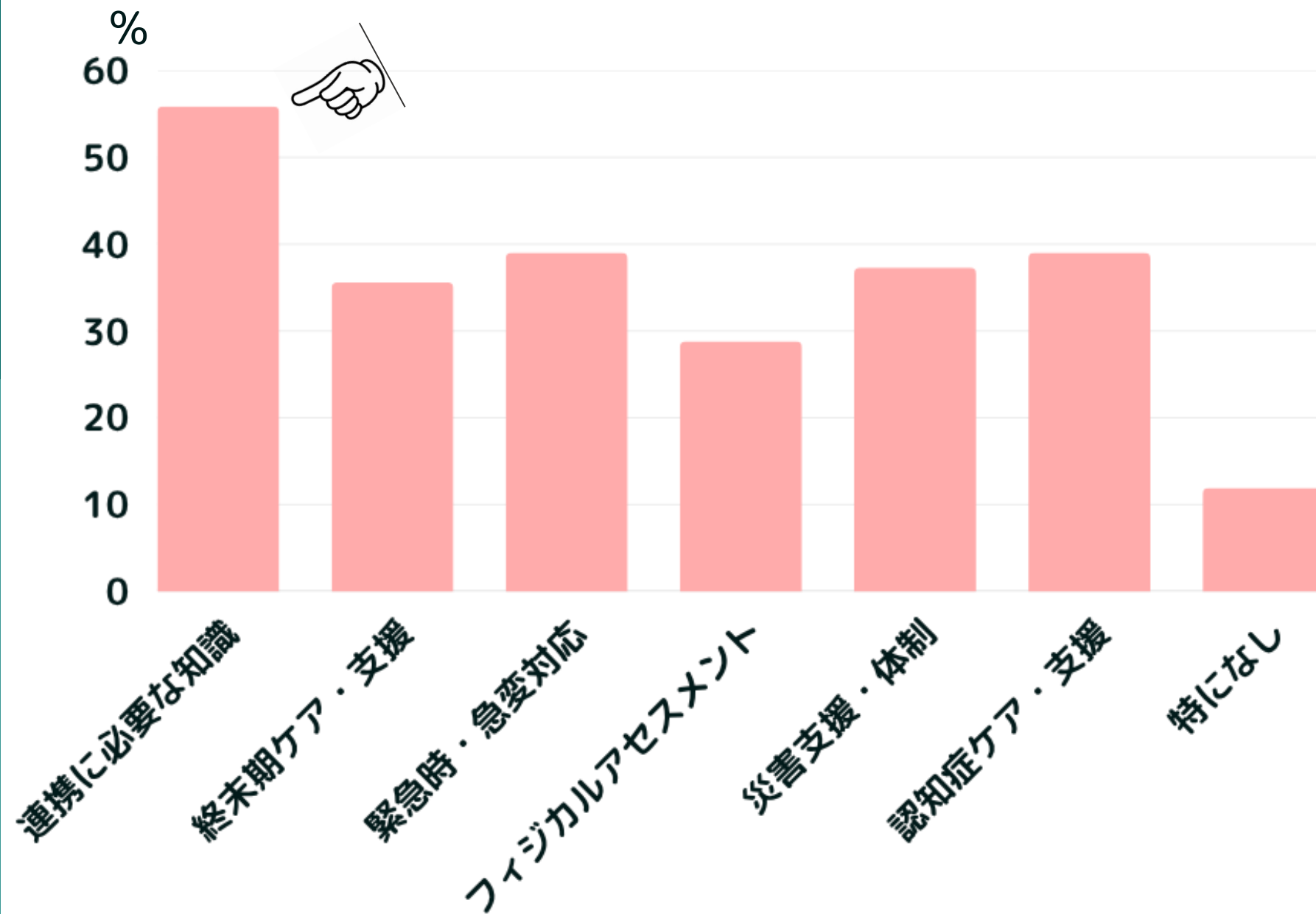


職員不足・業務多忙により、日々の
業務をこなすだけで精一杯となり、
連携のための時間が確保できていない

連携不足 → 認識のズレ → 利用者支援
の質の低下につながる可能性がある



06 希望する研修・自己研鑽は？

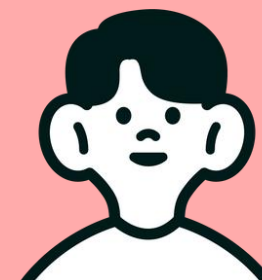


声

「連携に必要な知識」に関する研修を希望する声が多かった



「連携に必要な知識」とは？
医療の基礎知識・介護技術・
制度/サービスの理解・家族支援・
意思決定支援（ACPなど）



<背景>
経験年数5年以上が85%を占め、医療・
介護の基礎教育から年数が経過して
いる職員が多く、**ブラッシュアップの
必要性が高い**かも…



07 課題の根底にあるものは . . .

問題点

PROBLEM

1

多職種連携の不足

PROBLEM

2

利用者・家族対応の
負担増大

PROBLEM

3

職員の心の疲れ・
ストレス

PROBLEM

4

研修機会の欠如

課題の根底

全体を通して見えるのは、
「人員不足」と「時間不足」が
ほぼすべての課題の根底にあるという点。

08

改善に向けた方向性（提案）

1

人員不足の原因究明…

- なぜ、人が集まらないのか
- なぜ、人が辞めてしまうのか
原因はあると思われるため究明する必要があるのでは…

2

研修を「業務の一部」に組み込む

- **毎日10分**でもよいので、業務前or終了直前の**三二勉強会**を組み込んでみてはどうか？
- 「時間がないからできない」を防ぐため、業務の一部として時間を確保することも必要

3

多職種連携の場を意図的に作る

- 短時間ミーティング
- 情報共有ツールの活用など

【とうぶざいたく】主催

- ★ とみやすベース
- ★ 多職種「絆」研修
- ★ 在宅事例検討会 など

09 まとめ【現時点では…】

現時点でのアンケートから

「**人員不足**」と「**時間不足**」が、ほぼすべての**課題の根本原因**となっている。

まずは、“毎日10分”のように**小さくても続けられる取り組み**を導入することも、現場の負担軽減と連携力・専門性向上の第一歩になるのではないだろうか。

「**現状で、今ある資源・手段で、今できることをやる**」といったことをすすめていくことが必要である。